



他社とタッグを組み、 業務の可能性や幅を拡大

パリッとしたスーツを身にまとった、ちょっとお堅いエリート――。

そう銀行員をイメージする人が少なくはないのではないだろうか。そんな固定観念を一蹴しているのが、「島根銀行」だ。「計算や分析はAIがやってくれる時代。数字に強いより、相手に寄り添い、親身になってその人の人生を考えてくれるような人が銀行には必要なんです」。強調するのは、ノーネクタイにチノパンといったスタイルの高島浩希・人事財務グループ次長(39)だ。同行では2019年から女性行員の制服を廃止し、男性行員もスーツ着用義務がなくなった。「お客様のニーズは多様化しています。見た目の多様性がお客様に業務の幅広さを伝え、行員自身も意識するきっかけになれば」

1915年創業の老舗金融機関として、預金・貸出・為替業務を中心に長年、市民経済を支えてきた。しかし、地方銀行に求められる役割が徐々に変化していく一方、旧来通りの経営を続けていけば、いずれ十分なサービス機能を発揮できないとの危機感から、19年にネット金融大手《SBIホールディングス》との資本業務提携を締結。有価証券の運用

をSBIに全面委託したり、SBIマネープラザとの共同店舗運営を進めたりしたことで収益力は大幅に改善。「企業としての安定感が出てくる中、チャレンジを許容する文化が次第に根付き始めました」と高島次長。投資信託の業務移管は日本の銀行として初めてであり、共同店舗で証券のプロと交わることも行員の意識を刺激した。

両社の提携を生かしたプロジェクトでは、銀行の枠を超えた企業支援も実現している。「コロナ禍で売り上げ減少に悩んでいた地元のカニ小売業者に、海外への販路を提供することもできました。従来なら融資まででストップしていたはず。幅広いサービス展開が可能になってきたのです」。22年にはインターネット上の支店《しまホー》を開設。業界最高水準の高金利や、SBIとタッグを組んだ効果的なプロモーションで、開設からわずか一年余りで預金残高500億円を突破した。同年には吉本興業HDと包括業務提携も結び、特産品を活用した新商品開発やBS番組の企画協力など銀行の枠にとられない事業にも注力している。「何かやってくれるかもしれない」。しまぎんは、そんな期待を抱かせ、頼りがいのある銀行に生まれ変わらなければならない。

しまねぎんこう
株式会社 島根銀行

銀行の枠を超えたサービスで
人々の暮らしや地域経済を元気に

39
LEADING COMPANY

SHIMANE 島根銀行

株式会社 島根銀行

事業内容

金融業

創業 大正4 (1915) 年5月20日

代表者 取締役会長 鈴木 良夫

取締役頭取 長岡 一彦

社員数 391名(男217名 女174名)

本社 島根県松江市朝日町484-19

電話 0852-24-1234

採用エリア(勤務地)

安来市、松江市、出雲市、大田市、江津市、浜田市、益田市、隠岐郡、米子市、境港市、倉吉市、鳥取市

採用区分

新卒採用

キャリア採用

採用担当者からあなたへ

私たちは山陰で暮らす皆様の夢を応援する企業です！山陰で暮らす皆様をさまざまな形でご支援し、夢に向かって伴走していきます。地域を愛し、地域の皆様の力になりたい「山陰愛」を持っている方、「いろんな挑戦をして、いくつになってもワクワクしたい」という方は、ぜひ一緒に山陰を盛り上げましょう！！



人事財務グループ 佐藤 凧紗さん

資料請求・お問い合わせ先

採用直通 TEL

0852-24-1238

採用直通 E-mail

jinji@shimagin.co.jp

公式サイトはこちら



Instagramはこちら



銀行には、「預金」「決済」「仲介」といった三つの役割があると言われてきた。今も、その業務を担っていることには変わりないが、高島次長は、新たな銀行像を見据える。「お客様の要望に応えるだけでなく、想像以上のサービスを提案することで、人々の暮らしや企業の成長をもっと応援できる。今までの価値観を変え、新しいビジネスモデルで地域に貢献していく存在にならねばならない」。そんな新時代の銀行を担う人材として第一に求めるのは、「真面目さや保守性じゃない。「人生を豊かに生きたい」という気持ち。それが行員自身の成長、そして当行の成長につながる」と断言する。

若手も会議や企画に参加 挑戦を期待する社風醸成

島根銀行では今年、入社一年目の行員を本部に配属。将来的な経営方針を考えるような重要会議にも積極的に参加させている。支店配属の若手行員も、地域課題解決を狙った各種会議などに出向き、幅広い分野で活躍する人々と業務を超えた関係を築き、視野を広めている。「ささやかな気付きが地域を良くするきっかけになるかもしれない。かけがえない一人一人の意見を大事にしたいんです」。挑戦を期待する土壌が若手のモチベーションを高め、トップダウンでは想像できなかった挑戦を生み出し始めている。今年は、就職内定者のカフェ経営を若手が企画。楽しみつつ、経営を疑似体験してもらうのが狙いだ。

島根銀行は、新たな風を吹かせる人材を待っている。



1 2 好きなファッションに身を包む、しまぎんの行員たち。多様性を重視し、自由で枠にとらわれない社風が新たな挑戦を次々と生んでいる。3 島根銀行のSNSでは、自社や法人顧客の商品・活動のPRだけでなく、取引先以外の店舗なども積極的に紹介。地域全体を活気づけていきたいという思いの表れだ。



SBI未来共創プロジェクト推進室/スマートフォン支店
野中 駿平支店長(33) 高橋 理子さん(22) 横山 ふたばさん(22)
2013年入社 2024年入社 2024年入社



金融に関する幅広い知識が求められる銀行員。加えて、しまぎんが重視するのが、一つ一つの取り組みを自ら客観的に考えられる力だ。若手のうちから各種会議などにも参加し、課題や物事をロジカルに捉え、積極的に提案できる力を育てている。



出雲支店
森脇 誠支店長(51) 吉井 暖乃さん(24) 山根 みゆさん(23)
1995年入社 2023年入社 2023年入社



出雲支店のメンバーは現在30人中、8人が入社3年目以下。柔軟な発想を持つ若手が活躍できるよう、中堅・ベテランも後押ししている。地域や住民の夢への架け橋になるだけでなく、行員一人一人の夢の実現にも力を入れているのだ。

今、注目の支店はここ！

若手が積極的にプロジェクトを推進

開設から約1年で預金残高500億円を突破した、島根銀行スマートフォン支店「しまホ」が今、全国的に注目を集めている。山陰市場が縮小する中、高金利や使いやすさなどが評判を集め、全国各地で利用者を獲得。約8割の顧客が南関東や関西在住だという。「デジタル社会が進む中、金融機関もスマホファーストは必須。新たな事業に挑戦したくて社内の支店長公募に手を挙げました」。そう話すのは、最年少支店長に抜擢された野中支店長。準備段階から携わり、機動的な営業などで顧客を囲むとともに、法人向けデジタルサービス支援などもさらに充実させたい」と抱負を語る。

そんな野中さんとともに新プロジェクト推進に携わるのは、入社1年目の2人だ。銀行員として金融知識全般を学びつつ、SBIの幹部が出席する合同会議や社内の経営戦略会議にも出席。「学生目線のPR方法など、若手の意見も積極的に聞いていただき、毎日が刺激的です。まだ専門用語が分からず苦労しますが、銀行の将来性なども考えることができます」と声を揃える。「銀行って画一的なイメージしかなかったけど、想像以上に企画や戦略を考え、面白いことをしている」という高橋さん。その言葉に頷く横山さんは、「地域の脳みそのような存在として、地域や企業を支援していきたい」と熱く語った。

お客様のパートナーとして、夢の実現をサポート

出雲支店が掲げるモットーの一つは、「単なる御用聞きではなく、お客様の「良き理解者・パートナー」となる」。入社30年目の森脇支店長は、「かつては、既存ルール内で業界的に決められたことをするのが銀行でした」と苦笑しつつ、「しかし、SBIとの資本業務提携やコロナ禍を受け、ここ数年でしまぎんは様変わりしました。規模の小ささを逆手に取り、小回りが利き、バラエティに富んだ活動を行っています」と語る。

出雲市の女性副市長と、当行取引先の女性経営者で座談会を実施した際は、入社2年目の山根さんも企画から携わった。「普段会えないような方々に会え、出雲の課題も知ることができ

した。経営以外の話題も多く、視野が広がりました」と目を輝かせると、森脇支店長が「資金繰り支援だけでなく、地域や業界、取引先の本質的な課題にアプローチすることが経営課題解決に結びつくんです」と続ける。

山根さんと同期で、法人融資担当の吉井さんは、幅広くアンテナを持つことの重要性を痛感している。「作業環境に悩む鉄骨加工会社の声を聞いていた先輩は、他の取引先がニーズに合う新商品を発売した途端、紹介していました。お客様に寄り添い、課題を解決できるようなビジネスマッチングを行える存在になりたい」と意気込む。夢を実現できる環境づくりを後押しするのが、しまぎんだ。